

公会堂の古い書類

公会堂に保管されている一番古い書類は、明治五年に作成され神奈川県庁に提出された、土地の明細が書かれた冊子の控です。所有者別にまとめられ徳川幕府による検地の番号と昔からの小字名が書かれていて、これを基に地番が付けられ土地の台帳が作成された様です。明治十年代に地番順に書かれ、五つに集約され字ごとにつづられた冊子や、同じく明治十年代に地番入りで字別に描かれた切図と言われる明細地図もあります。また現在の土地の権利証に当たる明治十三年、十四年に発行された村の共有地の地券も残っています。

そして、明治三十年代の小坂村小袋谷地区の収入支出について書かれた役場の記録簿や昭和二年に建てられた小袋谷集会所の設計図や建築諸費用の明細帳など公会堂に保管されている古い書類は、冊子や地図、地券の他に一般的な文書や断片、配給関係の書類や祭礼関係の書類といった、明治大正そして昭和の戦前戦中戦後のものが一二点あります。

特に戦後に行われたいろいろな物資の配給について三十一の書類が残っています。こんなに多く残っている地区は他にないそうで、中央図書館の資料調査の職員が驚いていました。それらを見ると、どのような品物がどのように配給されていたのかが分かり、その当時の住民の苦労が感じられます。